

平成22年9月1日 14時00分～17時30分 江別市市民会館21号室

外部評価作業

- ①07-01 効率的な行財政運営の推進
- ②01-02 人と地球に優しい環境の創出
- ③03-03 子育て環境の充実

・出席委員

齊藤委員長、井上副委員長、山下委員、小野寺委員、高田委員

・説明員

①山崎政策調整課長、川島主査（政策調整課）

②高橋環境課長、三上環境政策参事、杉山係長（環境課）

③金内子ども家庭課長、村田係長（子ども家庭課）、岩淵係長（保育課）

・事務局（政策調整課）

安田部長、佐藤次長、山崎課長、川島主査、酒井主査、徳橋主事、長谷川主事

会議録

・外部評価作業

1 政策07 計画実現に向けて

施策01 効率的な行財政運営の推進

- ・14時 6分～14時17分 山崎施策マネージャー説明
- ・14時18分～15時20分 質疑応答・評価

～確認したい点、疑問点～

【井上副委員長】

基本事業03の目的をあらわす指標は、職員アンケートによって取得された指標ということであるが、この指標の「職員の能力が十分発揮され実績が評価されていると思う職員割合」の実績を評価する基準というものはあるか。

【山崎施策マネージャー】

前回のアンケートから今回のアンケートに至る中で、判断していると思われる。

【井上副委員長】

施策の主要事業一覧の中にある「職員研修事業」という項目が、この成果指標に繋がるような研修事業として充てられているかどうかを精査していかなければ、職員アンケートのみだけで評価するというのは、非常に難しいと思う。

【小野寺委員】

施策の課題で、行政目線での効果・効率や財政状況に照らして無駄を省くなどは、比較的簡単に図れるが、主人公の市民にとって必要なのか、妥当なのかということになると必ずしも行政目線とは一致しないところがある。市民にとって、それがどう必要であるかということをもっと踏み込んで課題提起するべきではないかと思う。

【山崎施策マネージャー】

「江別市財政の現状と課題」という冊子の中で、国の政策や市の経済動向、税収を踏まえたうえで、石狩管内等の近隣市や人口が同規模の市と比較したものにより、江別市の財政状況や財政見通しについて、公表し周知を図っている。

効率的な行財政運営の推進という施策だけ見ると、経費の節減だけに見えるが、31ある施策については、当然、コストを削減するだけではなく、例えば、社会保障制度部分の拡充や子育て支援、あるいは公共施設の円滑な運営、そして利便の向上なども政策の中に取り込んでおり、そういったものを複層的に、それぞれ施策の中で進めている。

ただ、この施策の中では、あくまで「効率的に」ということであるので、単純にコストカットするということではなく、全体を進める中で、財源意識を持って進めるといった意図の施策と捉えて進めている。

【山下委員】

施策の課題について、グラフ化している今後の財政見通しを見ると、決して楽観できるものではなく、歳出がどんどん上がっていく中で、歳入は横ばいとなっているので、「効果的・効率的適性配分」といったキーワードは重要だと思うが、その他に自主財源の確保、増加についても政策の課題にいれるべきではないか。

【山崎施策マネージャー】

自主財源の確保については、基本事業01の目的としているが、効率的な行財政運営を推進していく中で、自主財源をきちんと確保していくという形についても記載すべき内容だと思うので、今後そういった方向で考えていきたいと思う。

【山下委員】

施策の達成状況の記載の中で、向上15、低下11、維持19となっており、合計すると45になる。全部で51指標であれば、残りはどのようになっているのか。

【山崎施策マネージャー】

平成21年度は、後期計画の1年目であり、5年間のスパンの中で成果指標が最終的にしか得られないというものが複数本ある。残りは、その部分である。

【齊藤委員長】

まだ、手をつけていないものが後期にあるということか。

【山崎施策マネージャー】

いいえ。結果が、5年間経過しないと得られないもの、単年度で成果指標をあらわすことができないものということである。

【高田委員】

施策の目的をあらわす指標、成果指標について、各施策目標達成度割合と言われてもわかりづらい。例えば、費用対効果といった表現の方法はないのか。それと行政運営に満足している市民の割合については、住民の満足度というような表現にできないか。実質公債費比率について、もう少しわかりやすい表現等できないか。

【山崎施策マネージャー】

31にわたる政策の中で、一番、市民の方にわかりにくい施策に入るのかと思う。

例えば、施策目標達成度割合というものを費用対効果で見せるというのも簡潔な表現手法と思うが、施策評価が、単に費用対効果で表すものなのかどうか、検討させていただきたい。

「満足している市民割合」については、よりよい言い方を検討していきたいと思う。実質公債費比率は、市役所という業界ではスタンダードな指標であり、公的部分の行財政改革の4指標というのが公表されている中にも入っている数字であるので、そちらとの兼ね合いの中で、もう少し表現がわかりやすくできるかどうか検討させていただきたい。

～ 評価項目についての指摘・提言～

【山下委員】

施策の環境変化の「行政改革推進計画を策定」部分に、基本事業01で記載されている行革推進計画達成率の分母、分子や進捗状況について触れたらどうか。

また、江別市の人口減少の始まりという部分に、いつからというのを記載された方がどうか。

【齊藤委員長】

確認ですが、今年度の行政側の評価は、このままの文面ということですね。私たちは、その文面に評価を述べ、その評価は、これからの予算編成等で考慮したり、最終的には、来年度の行政評価を市が行う時に、参考にするというようなことよろしいか。

【事務局】

前回、お話ししたとおり、基本的にはそういうことである。あくまで5ヵ年にわたる施行管理、執行管理を行なっている関係から、ただちに変更できない部分については、この5年の中で一定程度留保し、次期総計に向けてということもあるかと思う。

【齊藤委員長】

施策の課題の中で、「行政資源」あるいは「行政環境」という2つの熟語がやや抽象的に思う。「漢字」から意味はわかるが、わかりづらい表現ではないかと思う。

【齊藤委員長】

他の委員からも指摘がありましたが、各施策目標達成度割合の内容が、やはりわかりづらい感じがする。他の成果指標は、アンケートの回答件数や比率などのパーセント数ということで、かなり数字としてはっきりイメージできるが、この達成度割合は、どのように作られたかということについて、わかりづらいと思う。

【山下委員】

施策の達成状況の記載の中で、3つの成果指標のうち、2番目と3番目についての原因分析の記述がない。実質公債費比率については、国からの交付金が多かったという説明が先ほどあったので、それを記載するべきではないだろうか。2番目の市民割合の変化については、統計誤差の範囲内というならその旨、あるいは上昇している理由をしっかりと書くといいかと思う。

【齊藤委員長】

達成度割合は全体の進捗度を表すものとなっているが、「進捗度」と「達成度割合」は、言葉として違うものではないか。検討いただければと思う。

基本事業01

【山下委員】

達成状況の中で自主財源比率の数値と成果指標の数値が違う点と、先ほど説明があった定額給付金18億円の話についても記載していただきたい。

それと「涵養に努めたい」という表現が、ややわかりにくいと思うので、わかりやすい表現を検討していただきたいと思う。

【山崎施策マネージャー】

自主財源比率の数値についてですね。申し訳ございません。

【齊藤委員長】

「行革推進計画達成率」という言葉と前にあります「各施策目標達成度割合」とは、どう違うのか。この辺についても今後検討していただきたい。

【井上副委員長】

行革推進計画は平成17年度から21年度の計画となっており、達成できなかったものに関しては、達成に向けた手法の検討を進めると記載されているが、これは、市民感覚では言うが遅すぎると思う。「いつ、いつまでに」という計画案をしっかりと練った上で言葉にしないと、手法から始めるというのは、不十分ではないか、説明不足になるのではないかと思う。

【山崎施策マネージャー】

行革推進計画は、それぞれ毎年度、ローリングで一定の評価、進捗状況の管理をしてきている。ここの記載の中で「手法の検討」としたのは、現行の枠組みの中での手法ということではなく、今後、違った部分での考え方、あり方自体を少し考えなくてはいけないという意味で手法と表現してしまったが、対外的には、説明になっていなかったと考える。

【齊藤委員長】

成果指標の実績で、達成できなかった原因分析がなされていないのではないかと思う。もう1点は、「涵養」という言葉が、非常に抽象的なので、市民にわかりやすい表現が必要ではないかということである。

基本事業02

【高田委員】

先ほど申しましたが、行政サービスの満足度、施設サービスの満足度、これに加えてやはり、住民の満足度という指標もいるのではないか。それと市民が求める行政の要望、課題について把握し、表現したらよろしいのではないか

【山崎施策マネージャー】

他の施策で似たようなものがあるのかどうか検証させていただいて、もし、なけ

れば、そういった部分についての指標、あるいは表現の部分について、アンケートの中でどのようにするかということなど、持ち帰って検討させていただきたい。

【井上副委員長】

達成状況の文言の中に、行政サービスの具体的な項目を挙げられているが、市民が求めている行政サービスというのは、タイムリーな情報提供や情報公開、法の遵守というようなことで、もっと上のものでないかと思う。施設サービスの満足度というのは、ここでいう窓口受付がいいことではなく、指定管理者が非常に効率的な施設運営をしているというようなことではないかと思うので、この表現方法は次元が違うように思われる。

【齊藤委員長】

関連して、電話交換あるいは窓口というように、この部分だけ特筆し、達成状況の欄に記載するのは適切なかどうかと思う。

【山崎施策マネージャー】

基本事業の下にある事務事業が、概ね、井上副委員長からご指摘のあった指定管理者や総合案内窓口の事業であることから、このような記載になっている。

行政サービスの向上であれば、先ほど井上副委員長からもありましたとおり、情報提供や協働の部分など、その辺のレスポンスが良いことなどに本当はなるのかと思うが、その部分については、それぞれ事務事業に組み込まれ、他の施策の中にあるため、実際に、この基本事業の中にある指定管理者関係や窓口といった事業の評価が一番合致している。ただ、体系的に効率的な行財政運営の中の行政サービスの向上での達成状況の表現をもう少し工夫するか、あるいは将来的にこの基本事業がこの形で、この施策の中にあるのが良いのか、他の事業との組み合わせで他の施策へ組み替えるということもあるのかということも含めて、研究させていただきたい。

基本事業03

【小野寺委員】

意見を言わせていただく。市職員がどう変わったのか、こういう努力をしたけれども、どう変われなかったのか、ということがこの報告書レベルでは、あまり見えてこない。市民はそこを知りたい。文言が、非常に抽象的でわかりにくい。ここの要点は、広い意味での危機管理能力の育成だと思う。職員が、何が危機、課題であり、どう考えているのか。組織の動きはどうなっているのか。訓練はされているのかなどを具体的に知りたいが、この報告書の中にはでてこない。できれば、内部努力で成果の上がったいろいろな職員の動きもあるだろうから、それが、報告書でなくても市民の目に映るもので、啓発し市職員の頑張りも見せて欲しいと思う。

【齊藤委員長】

小野寺委員の方で、指標として、そういうものが掲げられるイメージはあるか。

【小野寺委員】

できれば、指標として掲げていただきたい。職員がどう変わり、レベルがどれく

らいアップしているのかということ、当然、市民は知りたがっていると思う。

【山崎施策マネージャー】

定数管理の部分については、毎年、総務省へ前年の実績を報告しており、江別市のホームページ等で公開している。給与の体系や福利厚生 of 処遇の部分があり、その中に、研修の部分があったかと思うが、委員ご指摘のような内容については、なかったと思う。私どもの方でも、基本事業01の達成状況に「人材育成基本方針の実施」というのが達成できなかった主なものと記載しており、こちらともリンクしてくると思うので、職員担当部局とも調整し、今後、検討させていただきたい。

【井上副委員長】

基本事業の目的の中に「簡素で効率的な組織体制」と記載されているが、どう考えて「簡素」という言葉になったのか。

【山崎施策マネージャー】

改めて指摘されると印象が悪いのかなと思うが、多種多様化している行政ニーズというのが、市民の側からだけではなく、国からのオーダーでも、どうしても起きてしまっている現状がある。行政というのは、それに応じた一時的な業務量の増に対して、一定程度、組織や人員を増減してしまう部分があり、そういう部分を元に戻す、あるいは、業務量が減った部分を統合して一個にするというような意味で「簡素」という表現を使ったつもりである。

【井上副委員長】

「人員を減らす」＝「簡素」ということにならないことを期待する。「専門性が高く、少人数でも効率的である」ということであれば、非常に評価されると思うが、表面的に人を減らすことで、「よくやっている」という意味では使ってほしくない。

【山下委員】

達成状況の欄で「長引く社会経済情勢の低迷」が、この成果指標に影響を与えていると記載されているが、関係ないのではないかと思うので、検討いただきたい。あと、人事考課のことについて最後の行で触れているが、いつから実施しているのかについて記載していただきたいということの2点である。

【山崎施策マネージャー】

おっしゃるとおりだと思う。検討させていただきたい。

基本事業04

【高田委員】

例えば、成果指標について「行政事務管理費の抑制」というようなものを金額を用いて表すというのはどうか。

【山崎施策マネージャー】

行政評価による改善事業件数というものが、わかりづらい言葉なのかと思うので、検討させていただきたい。

【井上副委員長】

達成状況の最後に、「今後も行政評価に対する職員の理解度を高めるため」となっ

ているが、行政評価を開始してから、かなりの年度が経っており、こういう言葉で、説明会を実施するというのは、受け入れ難い。また、こんなレベルで行政評価が市の職員に認識されているとしたら、問題であるので、もう少し検討して欲しい。

【小野寺委員】

今、井上副委員長が言ったこととも若干関係してくるが、PDSのサイクルについてである。概ね私は納得しているが、長期的な取り組みになればなる程、回転に甘さがでてくる。私の経験で言いますと、「S」の部分、これは単なる評価ではなくて、「見極め」と考える。そうなると、もっと動的にした方が良く、「チェック」と「アクション」、この2つをここでやるとよい。チェックというのは評価も含めた点検で、アクションというのは、良いところをどんどん伸ばしていくという意味での、改善というよりは更新。この動的な取り組みを、特に長期的な取り組みではぶつけていくことによって、分析力や展開力がアップしていくと考える。概ね妥当だが、もっと動的にすることによって、今、井上副委員長が言われたような部分について、こんな記述はなくなると思う。

【山崎施策マネージャー】

当市のやり方のPDSのサイクルは、1年にそのサイクルを1度回すのではなく、実は、決算の時に評価版、当初予算の時に改革版ということで、翌年度予算に向けて年間で評価を2回行っている。そう言った意味では、小野寺委員の言われた部分は、若干なりともフォローできているのではないかと思う。

こちらの表現の部分に対してのご意見については、5カ年に渡る計画の1年目であり、この目的を変えるのは、今は難しい。今後の材料とさせていただきたい。

基本事業05

【山下委員】

「基幹系業務システムでの情報漏えい事件数」ですが、ここの基本事業は、「情報セキュリティの確保」となっており、「基幹系業務システム」と限定してしまっているのか。それしか情報漏えいの可能性がないということであれば良いと思うが、それ以外のものもあるのであれば、検討いただきたい。

【山崎施策マネージャー】

来年からとはならない部分もあるが、検討させていただきたい。

【井上副委員長】

情報セキュリティに関しては、あくまでもIT機器という道具を使う人間のモラルや職員の資質が大きく関与することから、達成状況の中に、「職員に周知」だけではなく、「職員の意識向上を図る」などというものがあってもいいのではないだろうか。今、いろいろな問題が取りざたされているとこなので、「江別市の職員の意識が非常に高い」ということを加えられるような方法を希望する。

【山崎施策マネージャー】

外部監査や情報推進部門から一定程度のサイクルで周知の徹底が図られており、職員の意識向上につながっていると思う。こういった状況を踏まえ、委員ご指摘の

部分については、そのような表現を使わせていただくよう検討させていただく。

【齊藤委員長】

言い残したことで何かありましたら、今までの部分も振り返って指摘いただきたい。なければ、それぞれのことについて、「適切」か「要検討」という仕分けをしなければならなかったのですが、私の考えでは、「計画行政の推進」の基本事業で、職員の理解度とかPDSサイクル等についての指摘があり、そこについては、「要検討」と思うが、他については、「適切」。しかし、「指摘事項があった」というようなことでまとめたいと思っているが、いかがか。

各委員、それぞれ提言いただきましたが、まとめは、事務局で行なっていただきたいと思う。また、主な内容については、その場で確認し、評価作業を終了したい。詳細については、事務局でまとめて後日ご確認いただくようにしたいと思う。

2 政策01 環境と調和する都市の構築

施策02 人と地球にやさしい環境の創出

- ・ 15時25分～15時37分 高橋施策マネージャー説明
- ・ 15時37分～16時22分 質疑応答・評価

～確認したい点、疑問点～

【小野寺委員】

地球にやさしい生活をしている市民割合という指標は、非常に主観的な指標だと思う。市民と行政が共有できる具体的な点検項目、客観的なものはあるだろうか。

【高橋施策マネージャー】

実際のところ、この達成状況を業務取得によって、数字的に得るのは非常に難しいため、市民の意識という部分で、市民アンケートによって、「地球にやさしい生活をしている」ということで、指標にしている。

【高田委員】

公害発生件数が、「0」となっているが、これは、江別には、対象の特定施設の届出事業所がないということか。

【高橋施策マネージャー】

市内には、特定事業所が359程ある。公害発生件数というのは、規制値を超えた事業所、「公害」という事件がないということを指標としている。

【高田委員】

今、「公害」という言葉を使っているか。環境庁では、「環境基準」というような表現となっていないか。

【高橋施策マネージャー】

一般的な「公害」という表現はまだある。最近では、産業型公害、都市生活型公害などの内容によって表現がされているようである。

～ 評価項目についての指摘・提言～

【山下委員】

施策の環境変化の下から2行目、「食料との競合」の意味がわからないのですが。

【高橋施策マネージャー】

この部分は、下から3行目のバイオ燃料の増産というところからつながってくるもので、バイオ燃料の原料として、「さとうきび」や「とうもろこし」といったものでんぷんからの微生物を使って、エタノールを製造するということがある。世界的には、これらの作物を栽培するために、森林を伐採したり、もしくは食料部分を回したりといったことが起きているため、「食料との競合」という表現で記載した。

【山下委員】

今の説明で十分わかりましたので、その旨、わかるように記載願う。

【齊藤委員長】

山下委員から指摘があったが、この内容については、「適切」と考えてよろしいか。併せて、「食料との競合」については、もう少しわかりやすい記載が求められる。

【井上副委員長】

この施策02は、大きく基本事業が3本になっているが、施策をあらわす指標が、基本事業01は地球にやさしい生活をしている市民割合で、基本事業02は公害発生の方で見えると思うが、基本事業としては、環境教育や学習というものが挙がっているが、全体指標の中にはない。施策の課題としても、「小中学校などと連携した環境教育の充実」というのがある。江別市の場合、事業所や農業経営だとか小中学校を含めて、産学連携の環境教育をやっているという特徴があると思う。そういうものを一つ指標として入れることが「江別らしさ」の取り組みとしてでてくるのではないかと思うので、ぜひ指標として欲しい。例えば、環境教育と農業体験を何校やったなどで見えてくるのではないかと思う。

【高橋施策マネージャー】

委員ご指摘のとおり、基本事業03の環境教育の部分の成果指標がないが、環境教育の部分については、回数となると活動指標的なものになってしまうし、学習の習熟度を成果指標とするのも、非常に難しい。

今後に向けて、この部分については、研究・検討して参りたい。

【井上副委員長】

実際に、環境、産業との協力で、いろいろな企画、取り組みをしている。そういう取り組みを積極的にしている学校数とか、実際に江別における環境教育の項目を取り上げている数や進捗状況というのは、数値化できると思う。

【高橋施策マネージャー】

環境教育を実施した学校数などは、私の意識としては、活動した指標という捉え方が非常に大きかったので、先ほどのような説明をさせていただいた。

実際、多くの子どもたちに、そういった教育をしたという成果として捉えることができるという方向で、検討していきたいと思う。

【齊藤委員長】

新たに、井上副委員長の方から、環境教育について、基本事業03と連動するような形で、小中学校との環境教育の連携、実施校あるいは進捗状況について検討していく必要があるという指摘でしたが、井上副委員長としては、適切、要検討であれば、どんなような判断か。

【井上副委員長】

施策の課題として1本、しっかり挙げている訳ですから、それに対して、成果指標を見える形とすることが、環境に対する市民意識の向上につながり、より市民が認知しやすいものになるのではないかなと思う。

【齊藤委員長】

評価としては、「要検討」というご指摘ですが、他の委員はどうですか。

それでは、「要検討」で以下のような理由があったということとする。

【齊藤委員長】

施策達成状況について、私は、概ね「適切」だと思うが、市民割合の横ばいになっている要因についての分析や少しわかりやすい文面があってもいいかと思う。あるいは、市民や事業者への啓発に努めるとあるが、抽象的な言葉なので、どんな取り組みかわかりづらい。01の基本事業の中には、市民講座とかセミナーのことが書かれているので、そのことを指しているのかとは思いますが、わかりやすい文章表現で、少し加えた方がいいかと思う。

他の委員の方、いらっしゃらなければ、「適切」ということで留意事項について記載していただくということとしたい。

基本事業01

【井上副委員長】

成果指標のところ、事業者数の後期目標値が30で、21年度の実績が30。この目標値は、妥当かどうかという判断基準が見えない。市で考えている配慮に取り組んで欲しい事業者数のうちの30件という形で、パーセンテージで出せないか。

それから、事業所という中に、農業経営などは入っているのかどうか、もし、入っていないのであれば、地場産業というか基幹産業になっているところの環境配慮型の活動というものを対象として指標にできないだろうか。

【高橋施策マネージャー】

1点目の事業者数の関係ですが、江別での企業、事業所については、中小・零細の事業所が非常に多く、国際認証や北海道の規格というような認証取得は、通常の業務、もしくは会社経営というところから考えて、非常に厳しい状況にあるだろうという認識があった。それで、平成19年度に後期の基本計画を策定する際の数字が25件であったため、年間1社程度ずつの取得を目標として、30という数値を掲げた。昨今の企業の環境に配慮する企業努力やイメージなどから、21年度までに5件取得され、後期目標値の30件となったが、これをさらに上回るような数値

をイメージして、これからは進んでいかなければならないと思っている。全体の事業所数を分母としてということですが、平成18年度現在の統計の数値で、3,330事業所あり、その中の25件とか30件という件数となるので、パーセンテージであらわすと非常に小さい数字で見えづらくなるため、こういう成果指標としている。農業経営の関係ですが、こちらの方は、正直、私ども環境部局では、詳細のところまで把握できていない。農業分野でも当然環境に配慮した事業活動が行われていると思いますが、成果指標に取組めるかどうかについては、検討・研究するというようなことしか言えない。

【井上副委員長】

ぜひ、施策の環境変化には、先ほど山下委員のご指摘あった、食料の供給や代替エネルギーの問題など、明らかに農業経営に密着する言葉が出ているので、江別市の基幹産業の中で、農業というのは非常に比重を占めている訳ですから、この視点を指標の中に取組めるよう前向きな検討をお願いします。

【齊藤委員長】

ここの成果指標については、他の委員の方から意見はないか。

それでは、ここについては、概ね「適切」であるが、井上副委員長からの指摘のように農業経営や地場産業との関わりなどの検討をお願いしたい。

【山下委員】

先ほど委員長の方から、施策の部分でも指摘があったが、こちらも原因分析の記述がない。先ほど口頭では、環境意識の浸透や企業のイメージアップ戦略、法令遵守等の話があったが、そういったことの記載がないので、しっかり記載することで、今後の改善、改革に結び付けていただきたいと思う。

【齊藤委員長】

他に委員の方から指摘はありませんか。

これについては、全体的には適切な表現だが、原因分析について、もう少し踏み込んだ表現が課題となるということですのでよろしいか。

基本事業02

【齊藤委員長】

成果指標について見ていきたいと思うが、委員の方からの指摘をお願いします。何もなければ、「適切」ということで、評価したいと思う。

【高田委員】

以前、公害防止管理委員という制度があったが、あの制度はなくなったのか。ないのであれば、その後の監視体制等に市の職員が全部応じているという理解でよろしいか。

【高橋施策マネージャー】

北海道への届出義務がある事業所は、石狩支庁、北海道が担当しており、江別の公害防止条例の中の市が担当している特定事業所については、市で監視などを行っている。ただし、北海道と連携しながら、監視などについても対応している。

【高田委員】

監視制度はなくなったのですね。

【井上副委員長】

P R T R法の化学物質の規制法ができてから、道の方も監視制度委員というのではないと思う。不確かかもしれないが、規制法ができたことによってなくなったと記憶している。

【齊藤委員長】

高田委員からの質問については、そのようなことでよろしいか。

達成状況の文言についてはいかがか。「適切」ということでよろしいか。

【井上副委員長】

この書き方については、問題ないと思うが、高田委員がおっしゃったように、一市民から考えると、「排出規制とは何？」と思う。例えば、クリーニング屋さんの排水をどこに流しているとか、銭湯、温泉がどうだとかというように、そういった身近なものがどうなのかわからない。ここで、基本事業に「安全」という言葉が書いてあると、私たちの生活とどう関わるのかということが一番知りたいと思うので、排出規制基準値超過事業者数だけで、表すのはどうなのか。もし、市民として見た時に、説明がもう少し必要なのではないかと漠然とした言い方で大変申し訳ないが思う。この基本事業に関しては、一般的な知識では、わかりにくい事業になってしまうのではないかと思う。

【齊藤委員長】

井上副委員長から、排出規制基準値超過事業所数というところで、これがどんなことを表しているのか、また市民の立場でクリーニングや銭湯とか、そういった事業所については、どのように把握できるのかとか、安全という目で、市民の目線としてわかるような具体的な指標としては指摘できないが、区分できないだろうかという意見であった。

では、井上副委員長の意見を附帯して「適切」ということでよろしいか。

基本事業03

【小野寺委員】

要望・意見ですが、基本事業の目的から始まって、消極的だというイメージがする。もっと江別の特色をだすためにも、踏み込んだ取り組みをしていいのではないかと、学校教育にかぶせちゃいけないと思う。要するに、ここの目的は何かというと、「市民が育つ」ということだと私は思う。行政に何を支援して欲しいかということ、問題を発見する市民を育てたり、主体的に係わる市民の出会いを工夫したり、あるいは、自力で問題を解決する体験をさせるなどである。江別が持っている条件、自然にしたって、産業にしたって、取り組みは非常にたくさんあるので、もっと踏み込んでほしい。私のような市民は、民放の情報番組の中で、資源ごみとしてだされたペットボトル処理再生工場において、ものすごくきれいに処理されたものが「江別のだ」という映像を見て、結構うれしかった。こんな単純なところから、「明日何

かしなくちゃいけない」という思いを持つことだってある。そう意味で、地域の条件をもっと使って、市民を育てなくてはダメだと思うので、もっと踏み込んだ取り組み、積極的にやって欲しいと思う。

【齊藤委員長】

小野寺委員、ちょっと私なりに思うのは、今回の外部評価は、施策の中身のより積極的な施策、あるいは踏み込んだ取り組みということについては、委員からの要望として把握できると思うが、外部評価のチェックとしては、そこまで言及できるかどうか。同じ観点で言っても、小野寺委員が言うように例えばペットボトルの処理など、いろいろな見える指標を取り上げるような形にすべきではないかというような意見については、検討できると思うが。

今、小野寺委員からは大きなご要望があったが、これについて、委員の方たちから、あるいはマネージャーからの意見をいただきたいと思うがいかがか。

【高橋施策マネージャー】

環境教育といっても、非常に範囲が広く漠然としているところがあり、なおかつ、他の部局で行なっている事業の中に、環境につながる事業、学習する事業がいろいろある。私どもが行なっているのは、所管する地球温暖化もしくは公害について、市民、小中学生、イベントというような形で環境教育を行っている。先ほどのペットボトルは、別の部局で行なっているものであるが、そういった取り組みを環境課の方から、環境の取り組みということで発信するなどして、取り組みの啓発をしていきたい。

【齊藤委員長】

小野寺委員からの要望がありましたが、この点についていかがか。

ここは、環境教育・学習の推進というところが、基本事業となっておりますが。

【小野寺委員】

一市民として、ぜひ一言いいたいということだけの話であって、他意はまったくありません。

【山下委員】

成果指標として、環境活動参加市民割合というのが設定されているが、意図に記載されている「意欲を高める」部分は、確かにこれでわかるが、「能力を高める部分」については、この指標でわかるのだろうか、片手落ちではないかという気がするので、もう一つ、付け加える必要があるのではないかということについて伺いたい。

【高橋施策マネージャー】

先ほどの基本事業の中でもあったのですが、能力という部分を成果指標であらわすということが、非常に難しい。その他にアンケートなどそういった項目を作りながら、比較をするということは、できるのかもしれないので、研究していくところになろうかと思う。

【井上副委員長】

そんなに引っ込み思案じゃ困る。基本事業名が、山下委員がおしゃっていた「環境教育・学習の推進」となっており、「推進」となっている以上は、前に推し進める

仕事を事業としているということである。次の達成状況の欄にも学校教育への出前講座が記載されており、積極的に出前講座をやっているのであれば、行政が出て行った出前講座が何件という件数を指標としてもいいと思う。そうすると、学習の成果として見えてくると思う。

【齊藤委員長】

今の井上副委員長からの指摘は、推進とあるので、もう少し積極的な活動について、表示したらいいのではないかということだと思う。小中学校児童への環境学習の実施、市民環境については、別添資料にも書いてあるので、この辺についての表現と考えるとよろしいか。

【高橋施策マネージャー】

誤解していただきたいくないのは、決して尻込みをしているということではございません。

もう一点、この基本事業のほかに、個別の事務事業の中に環境教育等推進事業があり、事業の評価もしている。その事務事業の中では、活動指標、成果指標とも、そういった学習をした人数やイベントの参加人数などといった形で指標を使っているので、その数字を基本事業の中でも同じく利用する、もしくは表すというようなことも検討していきたいと思う。

【齊藤委員長】

私たちの外部評価は、施策と基本事業の範囲なので、その下にある事務事業の中にあっても見ることがない。今、井上副委員長からもあったように、学習機会の実績等について、成果指標として入れるかどうか検討していただきたいと思う。

ここについては、「適切」ということでよろしいか。今、言った留意点について研究していただきたいということで、お願いする。

【山下委員】

繰り返しで恐縮ですが、原因分析がなされていないということ。具体的に、環境活動に参加されている方々の年齢層はどうなっているのかとか、男女でどうなっているのかとか、地区別にどうなっているのかなど、そういったことが見えてこない、打ち手が見えてこないと思う。そういったことをきちんと達成状況のところに記載して、打ち手をしっかりと考えていくということが必要ではないかと思う。

【高橋施策マネージャー】

今年は無理ですが来年以降の評価の中で、そういった方向での原因分析を検討して参りたい。

【齊藤委員長】

他に委員の方からございませんか。なければ、この内容については、「適切」ですが、原因分析については、属性等、細かく分析するような方向で記載していただきたいということでもよろしいか。

以上で、2番目の事案で、何か追加することありますか。

それではまとめると、全体的には「適切」ですが、「要検討」としては、施策の

目的をあらわす成果指標については、3本の基本事業にあわせて環境教育等についても、なんらかの進捗状況等を記載するという事。この1点が要検討としてでいていたと思うがよろしかったか。

それでは、この施策の外部評価の内容については、後日、事務局でまとめたものを確認するという事によりお願いいたします。

3 政策03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実

施策03 子育て環境の充実

- ・ 16時27分～16時37分 金内施策マネージャー説明
- ・ 16時37分～17時30分 質疑応答・評価

～確認したい点、疑問点～

【小野寺委員】

環境変化、施策の課題に関わる部分ですが、まず課題を把握する時に、少子化だけではなく、高齢化、情報化、それと経済環境の問題と絡めて、かなり徹底的な分析が必要ではないか。そうでなければ、明白な課題はでてこないのではないかと思うので、もう少し具体的に書いて欲しい。もう一つは、子育て環境の充実に関わって、様々な機関や団体、個人の方々がサポートされている。そういう方々の意思や要求あるいはそれぞれの状況等などの努力や活動の状況を示すような指標があってもいいのではないかということ。そういうものと絡めて、この取り組みを見てみる必要はないだろうかと思うがいかがか。

【金内施策マネージャー】

委員、指摘のとおり、多面的な把握が必要ということは、十分理解している。高齢化の部分についても、個別の事業の方になるが、ファミリーサポート事業というものがあり、こちらの方で、高齢者の方に地域支援を担っていただく側になっていただけないかという要望がある。それについては、個別事業の事務事業評価の方で触れているので、こちらの方では細かく表記していない。

【齊藤委員長】

これについては、小野寺委員、よろしいか。

続いて、小野寺委員からもう少し個人の意識とか状況、要求、あるいは活動状況を示すような指標がないだろうかという指摘だが。

【金内施策マネージャー】

個別の事務事業評価の子育てサロン事業という項目の中の活動指標として、子育てサポーターの延べ活動人数を表記している。

【齊藤委員長】

小野寺委員よろしいか。例えば、施策に記載するという事もあるかもしれないが、事務事業としての評価の中にあるという返答である。

【高田委員】

小野寺委員と重なる部分があるが、実は、私の自治会で、新生児への出産祝金を考えたことがある。この町がいいと言って住み、子どもを産み、世代を超えての繋がりを持つことは非常に好ましいことである。そして、子どもの笑い声が地域に満ちているというようなことは、まちづくりを目指す上で、大変結構な考えではないかと思う。このことは、自分たちも関連することだと思うので、それぐらいの決意が、最初の施策の環境変化、課題等の中で謳われるということがあってもいいのではないか。

【金内施策マネージャー】

これについては、先ほどから財政状況等のお話をさせていただいており、簡単には申しあげられないところである。

実際に、金銭をお渡しするというだけでなく、私どものところで、生後4ヶ月までのお子さんがいらっしゃるご家庭を訪問するという「こんにちは赤ちゃん事業」という事業があり、協賛いただいた企業のみなさんからの協賛品を渡したり、あわせて「親と子の絵本事業」の中で、本を配布したりと、祝い金とは意味合いが違うが、地域との繋がりを持つという意味で、こういう事業をさせていただいているところである。この事業は、一生懸命今後も続けて参りたい。

【山下委員】

2点ほど挙げさせていただくが、まず1点目が、環境変化のところで、少子化の進行、ひとり親世帯の増加、というのが、本市の場合、どういう状況なのかというのがよくわからない。例えば、合計特殊出生率などといったものがないと、わかりにくい。これは、小野寺委員からも指摘がありましたが、もっと具体的にという意味であり、その下にある子育てニーズの多様化も、具体的にはいったいどういうニーズの多様化があるのかという部分を教えていただければと思う。

もう1点は、成果指標の部分で、大きく増減があるので、その理由をもう少し、明確に書いていただければというところを指摘させていただく。

【金内施策マネージャー】

合計特殊出生率については、実は、毎年、全国、全道で発表されるが、市については、私ども独自で行っているものではなく、道の方で分析し、5年に1度、平均値が発表されるものである。最新のものは昨年度発表された平成19年度の数値であるため、記載してもしばらくの間、同じ数値が掲載されることになるが、それでも、具体的にということであれば、今後、検討したいと思う。子育てニーズの多様化については、確かに漠然とした表現であるが、細かいところをあげると、基本事業の方に関わってくるので、いかに適切に、かつ端的に表現できるかということは、来年度に向けて少し勉強させていただきたいと思う。

【齊藤委員長】

少子化のデータは、江別市が持っている人口統計などで表すことができるのではないかと思う。私も、山下委員の意見に同感である。また、多様化についても、具

体的なことが示されてもいいかと思う。ここの欄がだいぶ空いているので、書いて欲しいという感じがする。

【井上副委員長】

言葉尻をとって失礼ですが、子育てニーズの多様化の中で、行政に求めるニーズという捉え方をした方がいいのではないかということと、先ほども核家族という言葉がでたが、コミュニティが子育て支援をしなければいけない背景は何かということ、母子家庭の比率が高まってきたとか、女性の社会進出の就労実態がどうであったかという、そういう傾向を基にして、ニーズがこうなっているために、行政としては、こういう対応をするというような流れが見えてくると、これは足りて、これは足りていないということが見えてくる。文章的に、項目立てだけをしているので、たぶん、子育てをしていない人にとっては、あまり中身が見えてこないのではないのかと思う。ですから、子育てから離れた人でもわかるような項目の立て方をぜひ検討していただきたい。

【金内施策マネージャー】

先ほど委員長からも、欄が空いているというご指摘をいただいたところであり、もう少し来年に向けて、わかりやすいコメントを考えたい。

【齊藤委員長】

私の方から、達成状況のところ、「事業の創設をはかる中で現状を維持している状況にある」というのが、ちょっとわかりづらい感じがするのと、「子育て支援に対する期待感」とは、どの程度のことを言っているのか。「十分に対応しきれていない面も否定できない」という文章も抽象的という感じがする。

【井上副委員長】

達成状況の最初に、子育ての環境に関する意識は、「夫婦」と書いてあるが、「親を取り巻くとか」「子育て世代を取り巻くとか」、夫婦単位で子育てをしている世帯の比率が低くなっていることからすると、これは、理想論であって現実論ではないように思う。ちょっとこれは、社会的にどうかと思う。

【齊藤委員長】

「夫婦を取り巻く」という文言のところで、「夫婦」だけに限定していいものなのかというご指摘ですね。

【金内施策マネージャー】

夫婦と限定しているが、様々な子育て環境があり、男性と女性との関係や戸籍上の婚姻関係にない方もいるわけで、そういった中で、「夫婦」という表現だけでは、いささか古い表現だったという思いもある。この辺は、子育て世代とか、子育て世帯というような表現を考えていきたい。

【齊藤委員長】

それでは、施策の子育て環境の充実というところを検討してきたが、だいたい、出尽くした点があるので、まとめたいと思う。まず、環境の変化あるいは、課題についての文言ですが、意見もたくさん出たので、「要検討」とした方がいいかと思う。

他は、いかがか。成果指標、達成状況について。

【山下委員】

先ほどの発言と重複する部分があるが、「子育てしやすいと思う保護者の割合」が上昇しているが、現状維持というような説明が達成状況には記載されているが、これはよくなっているの、「よくなっている」ということの記載とその原因の説明の記載が必要ではないか。基本事業では、概ねあまりよくないのに、施策の成果指標はよくなっており、統計誤差を超えていると思うので、その説明を加えられるとよろしいかと思う。

【齊藤委員長】

それは、施策の達成状況についての文言ということですね。アンケート等の優位さも5%程度だと、あんまり言えないのかと思うが、ご検討いただけるか。

【金内施策マネージャー】

確かに数字は、上がっているが、そこの分析はない。私どもの方で行なっている事業で、十分実績をあげられないものの中にはあるが、私どもの方で十分でないと思っても、喜んでいただいている、満足いただいている事業もあると考えられるので、次年度に向けて分析させていただきたいと思う。

【齊藤委員長】

施策の成果指標については、「適切」ということでよろしいか。

最後の達成状況については、意見もあったが、文言として「夫婦を取り巻く」という言葉、これをこのままにしておけないと思うので、この点と、わかりやすい満足度についての表現を要検討していただきたいという評価にしたいと思うがいかがか。施策については、これで終わらせていただく。

基本事業01

【井上副委員長】

基本事業の目的のところ、「身近なところで子育てに係る様々なサービスの情報や相談、支援を受けることができる」となっていて、地域子育て支援のサービスの利用者数を成果指標として記載しているが、このサービスの情報などが、子育て世代にきちんと伝わっているかどうか、という指標は作れるか。

例えば、乳幼児などでは、予防接種などの受診率は、たぶん100%近いかと思うが、そういうように、子育てで悩んでいる方々に、行政の支援的な情報がきちんと伝わっているということ、精査できる、カウントできる何かがあれば、この指標にすれば、非常に連携がとれて充実度があると捉えられると思うが。

【金内施策マネージャー】

現在の指標では、うまく当てはまるものがないのかなという気がしている。あるとすれば、子育て情報の冊子を2年に1度、子育て支援室の方で作成し、市内の公共施設に置かせていただいているという状況はありますが、これについては、当初、部数を置いて、それを補充するということは行なっているが、年間、何冊でているのかといったような細かい数値は押さえていないのが現状である。今後、なんらかの指標化ができるのかどうか、研究させていただきたいと思う。

【小野寺委員】

若干、関連すると思うが、子育てというのは、「親育ち」でもあると思う。子育てサービスに、何人参加したかというのが目的ではなくて、その中で、「自分がこのように変わった」「こういうことを勉強した」という親たちをたくさん増やすということが目的だと思う。それが、成果指標の中にでてこなかったら、具体的に何を聞いたらいいのかと思う。要するに、子育ては、非常に幅が広いので、「私がこれについて聞きたいんですけども」と言ったら、「所管が違う」とか「管轄が違う」とかいう話になる。したがって、この目的、この意図、この成果指標であれば、子育て支援室子ども家庭課が所管しているこの事業の中でも、親たちがこれだけ育っているということが実感できるような指標があっても、私はいいのではないかと思う。何人参加したかとか、誰々がどのくらい利用したかということだけではなく、親たちの成長を客観的にキャッチすることができますか。可能ですか。

【齊藤委員長】

今、小野寺委員がおっしゃっている「親」というのは、子育て世代ではなく、もう少し広がっているのではないかということですか。

【小野寺委員】

いいえ、私は、先ほど少し触れたように、この部署、子育て支援室が担当したこの事業に限定し、子育て世代、今、子育てをしている世代を限定的に見ていると言った。

【齊藤委員長】

親を育てると今、返答がありましたが、子育て世代として、限定的に見て、そこにどのような支援とか、啓発とか、そういったことについての取り組みがあらわれるような指標がないかということですか。

【小野寺委員】

親が実際に、そういう活動に参加して、「このように変わったとか」「大変にためになったとか」、そういうものを計るような指標があってもいいのではないかということですが。無茶ですか。

【齊藤委員長】

いや、そうではなく、今、質問を理解しようとしているのですが、マネージャー、今の質問はいかがか。

【金内施策マネージャー】

例えば、利用いただいた方に、どういう感想を持ったかというアンケートをとるという手法はあるかと思うが、実際に、今そこまでの取り組みにはなっていない。こちらの基本事業だけでなく、個別の事務事業の方にも関わってくると思うので、今後、指標化することが可能かどうか、これも勉強させていただきたい。

【井上副委員長】

今、小野寺委員がおっしゃっている教育的な視点で、すごくよくわかるのは、意図の方に支援を必要とする子どもや家庭に対して、孤立を防ぎ、支援機関の連携を図ると、とてもいい文言が入っている。特に今、いろいろな問題が出ているときで

あり、ここに視点があると非常に把握しやすいと思うので、これが具体的に指標にあらわれるようなことを、ぜひ、今後の課題として考えていただければありがたい。

【齊藤委員長】

小野寺委員のご指摘も同じように、感想、アンケート等、いろいろなやり方があると思うが、今後の研究課題として、指摘したいということによろしいか。

【山下委員】

2点ある。まず、1点目は、井上副委員長、小野寺委員からの話、これはやはり、実際に利用された方からアンケートをきちんととってというところまで、やるべきではないかというところを1つ申しあげたいと思う。それと、もう1点、これはちょっと別の視点ですが、達成状況のところ、成果指標の1つ目は、理由の記載があるが、2つ目の部分については、初期値に比べるとほぼ横ばい、もしくは減少しているが、その理由がない。目標は300なので、まだ、あと100程、上げなくてはならないが、微減しているというところについて、これはどのように考えているのかを記載し、それに相応した打ち手を考える必要があるのではないかと思う。

【金内施策マネージャー】

これは、人数で捉えているが、どれくらい協議会の回数を重ねたかということよりも、私どもとしては、回数もさることながら、会議の場に、関係機関の方ができるだけ複数出席していただく事によって、一人が不在の時でも、相談がうまく繋がるといった対応を考えてきているところである。なんとか延べ人数を増やそうという意図であるが、その辺は、確かに達成状況でうまく表記できていないと思うので、こちらの方も検討させていただきたい。

【齊藤委員長】

他に基本事業01地域子育て支援の充実について、ご指摘、ご意見はないか。

では、全体的に概ね「適切」であるが、研究課題として先ほど委員の方からいろいろでているので、研究課題として、記載させていただければと思うがよろしいか。

基本事業02

【山下委員】

今、保育所の待機児童数は、7から9に悪化しているということですが、達成状況の欄で、後段の部分、「保育園の施設整備等により需要に見合った定員も拡大を図り」という表記は、これは市民に誤解を与える可能性はないか。要は、2人悪化しただけで、保育園を果たして、「整備」というのは、「新しく作る」というイメージがあるが、そういった表記でよろしいのかどうか。実際に、そういった予算措置まで考えてのことであれば、よろしいかと思うが、そうでなければ、この表現は果たして適切かどうかと言うところをお聞きし、もし適切でなければ、正していただいたらよろしいかと思う。

【金内施策マネージャー】

保育園については、ただいま計画を持っており、それに応じて進めているところであるので、こういった表現をさせていただいている。

【齊藤委員長】

他に委員の方からご意見ありませんか。よろしいか。

ここについて、成果指標についても、「適切」ということでよろしいか。それから、達成状況についても「適切」ということでよろしいか。

基本事業03

【小野寺委員】

質問になるかもしれないが、さっきも言いましたが、例えば、児童センターに併設されている児童クラブは、どういう活動をしているのか。子どものニーズと合致しているのか、していないのかということについては、どこに聞けばわかるのか。

【金内施策マネージャー】

この児童クラブというのは、放課後児童会と全く同じであり、私どもの使い分けとして、放課後児童会というのは、民間の団体が運営している学童保育を指しており、児童クラブというのは、私ども市の方で直営している学童保育のことを指している。児童クラブの方については、児童センターの中に一緒に併設しているというものであり、本来の児童センターというのは、学童保育だけじゃなく、自宅に帰宅してから遊びに来るという施設なので、児童センターとしての機能と学童保育である児童クラブの役割とは本来的には、少し違うところがある。そこは、同じ施設を使っているのに、わかりづらいところがあるが、当然、児童センターの利用者としては、児童クラブの子どもたちも数字にカウントになる。児童センターの子どもの利用者数が減っている原因の中には、他の民間の児童会に移行するため児童クラブが1か所縮小しているところがあり、利用数が少なくなっているということで、説明をしたつもりですが、多少、わかりづらくしてしまったのかと思う。

【齊藤委員長】

小野寺委員のご質問は、いわゆる児童会・クラブの機能とそこを利用している子どもたちのニーズと、うまくそこら辺が合致しているのか、あるいは、要望がどうなっているかということではないかと思うのですが、いかがか。

【小野寺委員】

そうです。そういうことは、どこへ聞けばわかるのか、とお聞きした。どうしてかという、基本事業の目的は、まさに、生きた人間の育ちを問題にしている。これについて、子育て支援室では、この報告書に書かれているものについては、掌握していると。私が言いたいのは、では、その内容はどうか。そのことについてまで、掌握しているのか、管轄しているのか、管轄は違うのかということを知っている。

【金内施策マネージャー】

運営の内容自体も、私ども子ども家庭課の方で所管している。

【齊藤委員長】

民間で運営している放課後児童会についても、把握されているということによろしいか。

【金内施策マネージャー】

私どもの方で、情報提供させていただいたり、連絡、相談を受けるというような状況になっている。

【小野寺委員】

そうすると、どういう児童センターやクラブの中で子育てをされているか、子どもがどのように育っているか、その概括については、子育て支援室に伺えばわかるということですね。どういう育ちができていくかということまで、わかるということですね。

【金内施策マネージャー】

「育ち」ということで、私がよく理解できているかどうか、いささか心配なところがあるが、この運営内容、毎月の活動の方針については、各児童センターの児童構成員が毎月計画を立てて、毎月報告をもらっている状況である。その中で、様々な事業をやっているの、子どもたちがどんな事業に興味を示しているとか、常連で来られている子どもさんたちが、どういった動きをしていると言うか、発育と言うか、運営の中で、どういう状況になっているかということ、私どもの方に毎月報告が来ているということで、把握をしているつもりである。

【小野寺委員】

あの一言、私の個人的な見解ですから、別に他意はありません。だとしたら、数ではなくて、もっと中身で評価できないか。どういう子育てが、今成果として、上がっているかという評価を文章欄でもいいから記載できないか。

【齊藤委員長】

今の小野寺委員の意見も、具体的に私たちが、こうしたらいいのではないかと、指摘はできないので、子どもたちが、どう育っているか、どのような指導がされているかということの評価できる文言、あるいは資料があるのか、そういうようなことを研究していただければと思う。そういうことで、よろしいか。

【井上副委員長】

成果指標になじまないものというものが、多々あると思う。その中で、全市的に子育て支援する時に、地域差が生じてないか。特に、学齢期の児童への支援などは、保育所などと違って、児童センターの立地条件、施設、ハードの部分で偏りがいいか。市民、児童に対して、選択の平等性や公平性が保たれているか、そういうようなことも、何かデータとして、付けていただくと評価しやすい。成果指標になるものだけを挙げてくるので、全体がとても見えにくい。たぶん、児童クラブの方も、年度ごとの計画や月々の子どもたちの運動能力やニーズ、要望に対して、どういう関わりがあったかというのを細かく見ていると思う。それが見える形が何もない。せっかく培ってきたものなので、見える化をできるように、いろいろな工夫を今後していただきたい。

【金内施策マネージャー】

地域の子どものさんの育っている姿、市としてどう考えているのかということ、何らかの形で表現するといったことを考えるべきなのかと捉えている。先ほど、指

指摘があったとおり、指標としては非常に難しいが、できるだけ客観的な表現ができるような方法を勉強させていただかなければならないと思う。

【齊藤委員長】

児童センターは18歳までだと思うが、家に帰ってから、来なさいとか、いろいろな制約がある中で児童センターがある。そうした場合に、徒歩圏で利用ということになるので、児童センターの立地によっては、地域的な偏りはできるのではないかと思う。今、井上副委員長から地域差とか、公平性について、わかるような工夫ができないかという指摘もありましたが、これはまた研究課題ということで、捉えていきたいと思うが、よろしいか。

【山下委員】

井上副委員長からお話のありました点についてですが、子育てしやすいと思う保護者の割合というのは、施策の成果指標にあります。これを例えば、地区別に出すということは可能ではないか。

これは、市民アンケートでとっているのであれば、地区別の属性もあると思うので、そういったクロス集計を成果指標にしないまでも、達成状況のところに加えるというようなやり方もあると思うので、検討いただければと思う。

【齊藤委員長】

今、子育てしやすいと思う保護者の割合についての地区別の属性で、クロス集計をすると、随分それだけでも、特徴がわかり、指標化しなくても達成状況の分析の中で触れるとか、そんな工夫もできるのではないかということで、これも研究課題ということでお願いします。

他にありませんか。なければ、基本事業の学齢期児童への支援については、いろいろ研究課題としてでましたが、概ね「適切」ということで、よろしいか。

各委員からの研究課題については、まとめていただいて、事務局として後日、確認いただくという形にさせていただきたいと思うが、よろしいか。

それでは、以上をもって、3番目の外部評価を終わりたいと思う。長い時間どうもありがとうございました。

3 今後のスケジュール

- ・次回、10/1（金）13時30分から開始。
教育に関わる3つの施策の部分となり、資料については、来週中には、各員のお手元に届くような形でお渡しする。
- ・前回の議事録（要点筆記）を配布。7日（火）までに、確認いただき、修正、訂正があれば、連絡いただきたい。
- ・施策のマトリクス表の配布。それぞれの施策が、こういった形で、評価が終わっているということを見るものの一つとしてお配りした。

本日、私たちの仕切りも悪かったのか、お時間、随分超過してしまいました申し訳ございませんでした。次回もよろしくお願いいたします。以上でございます。

4 閉会

それでは、5時35分と超過し、申し訳ございません。

皆さん、どうもご苦労さまでございました。関係の方も、どうもご苦労さまでございました。傍聴の方もどうもご苦労さまでございました。

以上で、第2回江別市行政評価外部評価委員会を終了する。